



2

2年生生活科

ユニセフ学習会

報告者 東京都江東区立豊洲小学校 小室 敦弘先生

1、活動のポイント

本校の教育目標は、「人権尊重の精神を基調にして、地球の一員としての自覚を高め、人間性豊かで主体的な行動を取れる児童を育成するために、次の目標を設定している。

ともに力を合わせる子
よく考え行動する子
すなおで元気な子



ユニセフ学習会

子どもたちはこの目標を達成させるために、日々の教育活動の中で充実した生活を過ごしている。2年生の子どもも、明るく元気で活発で、真剣な取り組みや活動がみられる。学年末をむかえた2月、教育目標のさらなる具現や継続に結び付け、生活科で「自分自身の成長を振り返り、これからも感謝の気持ちをもって意欲的に生活する。」ために、日本ユニセフ協会の方を招いてユニセフ学習会を行った。子どもたちは、ユニセフの名前は、先日行ったユニセフ募金を通して知ってはいたが、世界の子どもたちがもって生まれた能力を発揮し健やかに成長できることを支援する機関としてのユニセフについては十分知ってはいないので、中学年に進むこの時期により学習の機会となった。

2、ユニセフ学習会

体育館に集合した子どもたちは、何が始まるのだろうと期待と関心を持ち学習に望んだ。まず、この学習についての話をし、次にユニセフの方の話を聞いた。

〈学習の流れ〉

1、自分たちの生活を振り返るための質問。

- ・「今朝、食事をしてきましたか」（全員、手が挙がった）「この後、給食を食ベタ飯を食ベ私たちは、三度の食事を規則的に食ベている」
- ・「顔を洗ったり、歯を磨いたりするときに水道の水を使っている人」（全員、手が挙がった）「水道の水を使えないで、池や川の水で顔を洗った人」（手は挙がらない）
- ・「風邪を引いたり下痢をしたりして、病院に入院したことのある人」（数人の手が挙がった）

ユニセフ学習会
一、あいさつ
二、ビデオ
「ユニセフと地球の
ともだち」
三、開発途上国の
子どもたちの生活
四、体験
「水がめ」をはこぼう
「地雷」のきけんに
ついて

2、世界の子どもの中には、三度の食事や一回でも満足に食事ができない子がいることや池や川などの汚れた水を飲み水にしている子がいるなど、私たちのような生活ができない子がいることの話聞いて考える。

3、ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を見る
世界の子どもたちの厳しい生活とユニセフの活動についてビデオを見て、2の内容が本当のことだということを知る。

4、ビデオの中にあったネパールで使われている「水がめ」の重たいことや運ぶ大変さを体験したり「地雷」の危険について話を聞いたりする。

5、まとめでは、世界の子どもたちの中には生活の仕方が違い厳しい生活をしている子どももいるが「みんなと同じで世界の子どもたちは、夢や希望を持っている」ことの話聞いた。



水がめ運び

3、感想

- ビデオを見て、水をくむのに1時間も歩く子どもがいること。5才までに死んでしまう子がたくさんいることを知りました。
- ユニセフから支援を受けている国が思ったよりもすごく多いことがわかりました。ビデオに出てきた子どもたちは、笑顔でしょうらいの夢をもっていてすごいと思いました。
- 水が入っている水がめを持ち上げたとき、とても重いと感じました。こんなに重たいものを1時間も歩いて運ぶなんて、信じられないです。ユニセフ募金で家の近くに井戸ができて、本当によかったと思います。

4、まとめ

ユニセフの学習を通して、子どもたちは世界のどこかで、自分たちと同じような子どもが命の危険にさらされたり、学習の機会を奪われたりしていることを、より身近な事として知ることができました。また、「困っている人の役に立つ」「日本に生まれたわたしは、貧しい国の人たちを助けるために、募金をしたい」という心をはぐくんだことは、大きな成果であったといえる。

今回のユニセフの学習をきっかけに、子どもたちが「貧困や子どもの学ぶ機会」について興味を持ち、将来大人になった時にも、世界の困っている子どもたちを支援する活動などにかかわってほしいと思う。